

理解、定着、応用
－公立中学校で考える－

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：最近、公立中学校でお話をしているようですね。

A：(林明夫。以下略)はい。経済同友会の派遣講師として東京都や千葉県などの公立中学校で、総合学習や道徳の時間に毎月何回かお話をさせて頂いています。

Q：どのような話をしているのですか。

A：勉強の方法についてよく分からない生徒が多いように見受けられましたので、できるだけ基本的な話をしています。

例えば、学習には「理解」「定着」「応用」の3段階があり、各段階にふさわしい学習方法をとると学習効果が高いという主旨の話です。私はこれを「学習の3段階理論」と呼んでいますが、これなどは生徒からも先生からも好評を博しているようです。

Q：唯今のお話の中にあつた「理解」とは何ですか。

A：学ぶべきことが「うんなるほど」とよく分かること、腑(ふ)に落ちることです。学校や学習塾、予備校などの「授業」は、この「理解」の場といえます。

Q：「理解」のコツは何ですか。

A：先生の行う授業に、全エネルギーを集中することです。両手を机の上に置き、先生の目を見ながら熱心に授業に耳を傾けること、これが「理解」の第一歩です。「おしゃべり」「忘れ物」「遅刻」「早退」「欠席」「居眠り」などの「だらしなさ」や「ぞんざいさ」は、「理解」を妨げます。厳に戒めたく思います。また、「テキスト」を理解するために役立つ「辞書」や「参考書」の活用方法を身に付けることも大切です。

Q：「定着」とは何ですか。

A：一度「理解」したことでも「あつという間」に忘れてしまいがちです。それを確実に身に付けることを「定着」といいます。この内容は、以下の3つです。

- ① うんなるほどと一度「理解」した内容を、正確にスラスラ言えるまでにすること。
- ② 何も見ないで「楷書(かいしょ)」で書けるまでにすること。
- ③ 基本的な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で正解できるまでにすること。

この3つを、私は「定着」と呼んでいます。

Q : 「定着」のコツは何ですか。

A : 「定着」のためには、「定着のための作業時間」が欠かせません。ただし、「授業」中にはこの時間が十分にとれない場合が多いので、自分自身で「定着のための作業時間」を確保することです。それが「コツ」です。

また、ファミコン、TV、風呂、パソコン、携帯電話、ケンカ、悩むことなどに長い時間をとられると、「定着のための作業時間」が少なくなってしまうので、これらをどう減らすかも課題となります。

Q : 「応用」とは何ですか。

A : ①「合格点が取れること」と、②「実生活で役に立てられること」、この2つが「応用」の内容です。合格点を取るためには過去問を5年から10年分解き、間違えた問題はその原因を小問ごとに分析します。「理解」不足か、「定着」不足か、「応用」力不足か、その原因を推定した上で、3つの段階に応じた勉強をし直すことです。

Q : ずいぶん基本的なことを話しているのですね。それはなぜですか。

A : いくつかの中学校で話しているうちに、勉強にとって大切なことは何かということが十分理解していない生徒が少なくないことが分かったからです。もしかしたら、公立中学校だけでなく、われわれ学習塾や予備校、私立高校でも、必要な生徒には先生方のお考えになる勉強の基本を伝えた方がよいかもかもしれませんね。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 「教育成果」を決定する上で、学習者である「本人の自覚」と教え手である「先生の教育力」がいかに大切かを、公立中学校に行き改めて痛感しています。

何のために勉強するのかを考え、「自覚」を促すためのツールとして、地域社会の一員としての企業人の講話も役に立つようです。

また、「新聞を読んで考える」習慣を身に付けることも有用と考えます。前日の新聞を活用すれば、学習塾や予備校、私立学校でも財政的負担なしにNIE (Newspaper In Education、新聞を教育に)の活動が可能です。開倫塾でも、塾生の「自覚」を促し学習の動機づけをするために、40校舎すべてでNIE活動をスタートしました。

最後に、これは余計なことかもしれませんが、内容3割削減の教科書は小学校の卒業生の何割かが私立中学校に進学している首都圏の公立小・中学校のためのものであるような印象を強く持ちました。皆様、どうお考えですか。

2月号はボアオ・フォーラム・フォーアジア(中国・深川)、3月号は再びフィンランド・ヘルシンキからの報告となります。楽しみにして下さい。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

— 2005年11月15日記す —